



"To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE Y'S MEN'S CLUB OF OSAKA - CENTENNIAL

c/o YMCA INTERNATIONAL PROGRAM CENTER
 Dojima Grand Bldg., 1-5-17
 Dojima Kita-ku Osaka 530 JAPAN
 PHONE (06)344-1717

カット 柴田 健

JANUARY, 1989 VII

	1988-1989	THEME
IP	共に歩き友となる	WALK BESIDE ME AND BE MY FRIEND
RD	核心 拡充 活発 改革	VISION VOICE VITALITY
DG	理想を追い求めよう	WE GROW OLD BY DESERTING OUR IDEALS
CP	クラブコミュニケーションの輪を強めよう	LET'S MAKE OUR CLUB OPEN & FRIENDLY

EMPHASIS THIS MONTH...ワイズスピリットの月

今月の聖句

主をほめたたえよ。
 もろもろの天から主をほめたたえよ。
 その天使よ、みな主をほめたたえよ。
 その万軍よ、みな主をほめたたえよ。
 日よ、月よ、主をほめたたえよ。
 輝く星よ、みな主をほめたたえよ。
 いと高き天よ、天の上にある水よ、
 主をほめたたえよ。

詩篇 第148篇1-4節

HAPPY BIRTHDAY

掛江康一君	1. 1	藤井道雄君	1. 9
中村幸枝メネット	1. 1	松本有公子メネット	1.15
真嶋直子メネット	1. 3	松添玲子メネット	1.21
有本圭希君	1. 4	湯浅かずメネット	1.26
松本常晃君	1. 6	三浦直之君	1.27
福永嘉彦君	1. 9	佐藤勝雄君	1.28

Statistics (統計)

会員数	37名	ゲスト&ビジター	7名
第1例会会員出席	22名	メネット&コメント	12名
第2例会会員出席	7名		
メークアップ	2名	出席率	64.86%

今月の例会当番

第4班：山田、上月、田中、掛江、藤原、松尾
 のみなさん準備、後片付け等ご協力お願いします。

1月第1例会プログラム

(今月のテーマ：ワイズスピリット)

日時 1989年1月18日(水) P.M.6:30-8:30

場所 堂島YMCA国際社会奉仕センター

司会 上月君

1. 開会 会長
2. ワイズソング 一同
3. 聖句朗読 松尾君
4. ゲスト紹介 会長
5. 日々の糧
6. 晩さん
7. スピーチ 「野草の楽しみ」
 ゲストスピーカー 高尾樺雄氏
8. お誕生日祝い
9. ニコニコ献金 ドライバー
10. 役員会、委員会報告、YMCAニュース
11. 閉会 会長

★★ ゲストスピーカーのご紹介 ★★

本日のゲストスピーカー高尾樺雄氏は、神戸女子薬科大学教授、御専門は有機薬化学です。御専門以外に植物、特に野生の植物に御造詣が深く、又趣味で植物画(ボタニカルアート)を描いていらっしゃいます。昨年「野草のスケッチ」(廣川書店)を出版されましたが、本日はスライドでそれらのスケッチの幾つかを見せていただける予定です。

1月第1例会：1月18日(水) PM 6:30-8:30

場所：YMCA国際・社会奉仕センター

第2例会：1月25日(水) PM 6:30-8:30

場所：同上

掛江 康一

例年、様々な趣向で楽しみなセンテニアルのクリスマス例会ですが、今回はスライドによるイエス様の降誕物語が第一部でした。留学生の方が参加されて、流暢にナレーションをして下さったので、とってもしつこい感じがありませんでした。それに当センテニアルワイズが誇る聖歌隊の合唱が、素晴らしい歌声を聞かせて下さって、厳粛であたたかい礼拝が持てたように思います。

それに続く第二部は乾杯と晚餐で、鈴木謙介メンの音頭により和やかなパーティーが始まりました。なかなか毎月の例会には参加できないメネットやコメントの皆さんが多数参加しての例会でしたので、あちこちで楽しい談笑の輪が広がっておりました。留学生の人たちも、みんなの輪の中にとけ込んで、ご自分のお国と日本の文化の違いなどについて、話が弾んでいました。センテニアルワイズは、YMCA国際社会奉仕センターへのサービスをその中心的な目的としていますので、国際社会奉仕センターで学ぶ留学生の方との交わりは大切な事だと思われまます。出来ればその交わりの中から、本当に留学生の方が日本で学ぶ上で困っている事や、必要としている事が出てきたら、素晴らしいと思えました。今回もメネット会が国際社会奉仕センターへの献金を捧げましたがこれからも一層センテニアルの役割をメンバーが理解して奉仕につとめられたらと、思いました。

さて、松添メンのショパンのピアノ独奏や、ゲーム、プレゼント交換があり、またたく間に予定の時間は過ぎてしまいました。メンバーの中には、このクリスマス例会を毎年大変に楽しみにしておられる方が沢山おられるようで、「今年も楽しいクリスマス例会でしたね」と、交換したプレゼントを大事そうに抱えて家路につかれました。



会長メッセージ

平田 雅利

大阪センテニアルの皆様
新年明けましてお目出とうございます。

昨年中は皆様方の絶大なる御協力に助けられました。我がセンテニアル丸も楽しく航海をしましりました。本年もなお、一層のサポートをお願い申し上げます。昨年は世界大会という大きなイベントがあり我々のクラブも大会への参加や海外のお客様をお迎えしたりして国際化へ半歩近づいたような気がいたしております。

本年は日本区大会が6月大阪中之島公会堂とロイヤルホテルにて催されます。高槻ワイズにホスト役をやっているのですが、地元ワイズメンズとして協力や積極的な参加をしていかねばならないと思っております。私もワイズライフは大変浅そうございますがまずは参加する事が第一歩であり、そこから又新しい出会いが発生し友情の輪が広がると思っております。ぜひ皆様方の参加をお願いします。

又、本年は引続き例会は楽しく、出席いただいで有意義であったと思っております。ただ一人でも多くいらっしやいます事をモットーに進めていきたいと思っておりますので

皆様方の積極的な御協力をお願いします。メンバーの方で例会にてお話をしていただけの方や又、楽しいお話をお持ちの方を御紹介いただける方はぜひご一報いただきたいと思っております。

又、我がクラブの出席率は一番悪うございます。皆様の御協力でドロップメンバーが出ない様進めていこうじゃありませんか。本年皆様、全員でこの大阪センテニアルクラブを楽しく航海していきましょう。

WELCOME TO OSAKA



第44回ワイズメンズクラブ国際協会
大阪日本区大会

とき
1989年6月17日(出)~18日(回)
ところ
大阪市中央公会堂・ロイヤルホテル
ホストクラブ
大阪高槻ワイズメンズクラブ

新しい年、1989年の初めに強く感ずる事ども

鈴木 謙介

「国際」はもう古い。人間(人類)からの思考や発信の時間が初まったとしたら、国際ではもう通用しない。我々はもう地球時代にあるから、その視点から価値判断や価値の追求が主体的に行われねばならない。何故か?

この地球は一つという意識と核の戦争がおきると世界が滅亡するということを誰もが感じている。それが昨年あたりから米国とソ連とが互いに、和解、イラン、イラク戦の終結、アフガニスタンからのソ連の撤退、キューバ軍のナミビア撤兵、大国(米、ソ、中国、EC、日本)がそれぞれ持つ問題を相互の意図的接触や交流をいやおうなく行って自存を計ろうとするが、それは相手方の、或は他の状況から影響されずには解決しない。もうこういう時代に入ったのであると見て良い。

こういう背景と方向に向かっているとき、一国一国の政治というものは人を絶望させる。これは日本だけでもない。政治というものはこういうものだと思ってしまう。これまでだが、こと対外的(外交、経済政策)問題はますます困難さを皮肉にも増大させる。日本の例を見ると、この未曾有の豊かさに到達して、国際的に経済大国といわれて、国際的援助、贈与が要請され世界の舞台で最大に近い働きをしているが、受ける側からは必ずしもこれが喜ばれていない。東アジアの範囲に限っても、その傾向が著しいのは我々日本人にとって絶えざる違和感の連続である。今頃になってこの様な代償を払い続ける不運は如何にその原因の根が深く激しかったかの証明だと思つたらよい。古い日本というものに、この機会にもう一度思いを致してみたい。勿論もはや戦後ではない。第二次大戦が終わってから、もう35年近くにもなって、その間の我々の歩みも併せて省みるのは、これ又大事なことであろう。

さて、ワイズメンは、今どうなっているのか! 私見によれば、クラブにこもって、むかしの古いものから脱することに遅く、ひとりよがり、YMCAからも、社会からも余り問題にされないで、いたずらに時間を空費しているのではないか。ランチョンクラブというカラにこもってしまつて運動体としての新鮮、インパクトが欠けて行きつゝ

あるのではないか。いまワイズメン内部の真剣な討議が辛抱強く行われていかなければならないのではないか。そして短い時間の、一部の雄弁力に偏った結論に急ぐことなく、納得性のある結果を生み出さねばならない。

我がセンテナルを厳しい眼で見ると、決して優等生とはいえない。古い言葉だが、原点を見つめること。そして世界の情勢に眼を開いてこの新しい時代の価値観に即してクラブの立て直しを計っていかないと自滅するおそれが無いとはいえない。

それではこれからどうすればよいか？

1. 入会した時の感激や誓約を思い出そう。それはむづかしいことではない。月1回の例会は早くから自明の事。予定をうまく組んでおく。メネットさんの協力を得ておく。できるかぎり夫婦で参加する。
2. やむなく欠席のときは代例会か、近隣のクラブでメイクアップを計る。第2例会にはなるべく全員が出席して、全体の計画や歩みを知っておく。
3. YMCA (社会奉仕センター) との良好な関係の維持に努める。YMCAの側からも、もっと手や足を出してほしい時がある。互いにやっていることを知らせ合うことが上手でない。
4. 世界の、アジアの、日本区の中西区の、他のクラブで起きていることを面白く知らせ合うこと、そして特にクラブのメンバーの家族(メネット、コメット)と他の国の、他クラブの家族ベースの交わりを促進すること。IBC-YEEPを追求し実行する。トライアングルを生かしているか。
5. EMCは形式的、数字的、みせかけのことに必ずしもこだわる必要もない。一人一人がよいワイズならばそれで自らEMCは好くなる。

以上は自由な、いや、一人よがりの言説です。クラブ内の討議が進むことを熱望する余りとゆるして下さい。

IBC WORLD NETWORK

カナダ便り ー香港の動きー

谷川 寛

クリスマス前にカナダから一通の封書が届きました。開封したら、あの香港ボヒニアの直前会長 PEGGY SHUM からのものでした。消印はカナダのトロント。京都の国際大会のあと、香港に帰り、カナダ移住を決意したそうです。香港の旅行代理業の仕事はあいかわらず彼女の部下がやっているそうです。

彼女が移住を決意した理由は、以前にも書きましたが、例の1997年の中国本土への返還です。このことの為、多くの金持、インテリがカナダ、米国、豪州への移住を考え、すでに実行しています。PEGGY SHUM の前の会長の WINNIE LUNG FUNG も米国に移住しすでにクリスマスカードを二回受け取っています。

このように中産階級以上の人々が、1997年以降に不安もっていますが、一方、PEGGYの手紙によりますと、逆に日本が香港の不動産の取得に動いており香港の DES VOEUX ROAD にある彼女の事務所を HK \$ 2,900 PER SQ. FT で買って良いと目下オファーしてきているそうです。彼女は売るべきかどうか目下検討中とのことで、私の銀行あたりの見方はどうかと打診してきています。

来年二月私が YMCA のアジア同盟の会議で香港を訪問する際に、香港にいないので大変残念であるが、未だボヒ

ニアのメンバーはたくさんいるから、間違いなくアテンドする旨、書いてありました。

“大阪センテナルの皆さんにクリスマスおめでとう、そして良きお年をお迎え下さい” とのメッセージがありました。尚、PEGGY SHUM の住所は以下の通りです。

PEGGY SHUM
1 ROMAN ROAD
THORNHILL
ONTARIO L3T 4J8, CANADA

ハワイ便り

私達のブラザー、スアスクラブの L. HIRANAKA さんより便りがありました。御一読下さい。現会長の女性会長 NAOMI AIMOTO さんからのメッセージとして、ハワイ区大会(1989. 5月26~28日)に是非ブラザークラブの大阪センテナルと香港ボヒニアのメンバーを招待したい、とのことです。今から準備して5月のハワイ区大会に参加しませんか。

Dear Kan:

It has been quite some time since I had written to you, and I hope this letter finds you and your family in good health.

With the holiday season approaching us very rapidly, and the many functions and activities on our December calendar, I had overlooked one request made by Naomi Aimoto (our President) at the last business meeting. The request being that I write and extend an invitation to the Osaka Centennial and Bauhinia Clubs to attend the Hawaiian Region's 53rd Y's Men's Convention.

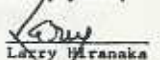
Please accept this letter as an open invitation, should you or any of your club members wish to attend the convention.

The Convention will be held at the Kauai Hilton & Beach Villas on the Island of Kauai on May 26th-28th, 1989. Of course, our club will not subsidize the attendees' convention costs.

Should any of your members express interest in attending the convention, we will be happy to have registration forms, with all the particulars, sent to your club. Finally, inasmuch as we would like to host your members on Oahu, should any of them wish to spend some time in Honolulu enroute to and from the convention, we would ask that the information be provided to us as early as possible for planning purposes.

Please convey my regards to Yumi and your family in wishing them well for a joyous holiday season.

Y'sly yours,


Larry Hiranaka

中西部新年合同例会報告

掛江康一

ワイズメンズクラブ中西部新年合同例会は1989年1月7日午後2時より大阪国際交流センターにおいて行われました。当センテナルクラブからは、平田会長をはじめとして、鈴木メン美藤メネット、谷川メン、松本メン、真嶋メン、田中コメット、掛江メンの8名が参加しました。今回の中西部新年合同例会というのは、今の17クラブ揃っての新年会としては一応最後という事で、参加された皆様には特別の感慨があったようです。

この新年合同例会がもたれました1月7日は、丁度昭和の天皇の崩御の知らせが朝早くから日本全国を駆け巡り、昭和の最後の日に新年合同例会を持つという事になりました。プログラムに若干の変更はありましたが、例会は予定どおりに行われました。ゲストとしてお迎えした、ソプラノの南雲英代さんとピアニストの浅井奈穂子さんによるクラシックのオペラの名唱の数々、大変に素晴らしいもので

した。ドイツの歌曲と、イタリアオペラのアリアに一同聞き惚れ、アンコールの大合唱でそれに応じて「さくらさくら」のしっとりとした歌まで披露していただきました。それに続きましては入会式です。日本区理事により2名の新入会者の入会式が厳粛に行われました。

さて、会の終わりは閉会挨拶が次期中西部長中川メン、閉会の祈祷が次期阪和部長の新任メンということでした。一つの部が発展的に解消して二つの部が出来るというワイズの歴史の場に立っているという事を感じました。「ワイズの友情は永遠である」という言葉のとおり、これからの新中西部と阪和部のお互いの発展とお互いの堅い結び付きを祈念し、確認した例会であったと思います。

もう黙ってはおられない

黒田 巖之

1月4日の朝日新聞の声欄に「消費税」についての多くの人々の意見が寄せられていた。「すでに値上げは始まっている。」(56才男性)、「撤廃の運動に立ち上がろう」(67才男性)、「文化生活など夢のまた夢に」(36才男性)、「牛歩を共にしたかった私」(60才女性)等。

表題だけでもわかるように、いづれも自民党が数を頼んで無理矢理成立させた「消費税」の施行による今後の社会を憂える声ばかりであった。しかもこの自民党たるやリクルート汚染に毒されているながら、敢えて、それをおおいかくしての暴挙である。

また1月6日の日本財界の新年名刺交換会での財界幹部の消費税に対する意見をきいた、キャスターの「庶民の生活はどうなりますか。」の質問に対し、ある財界幹部は「よくなるよ、消費税が実施されても減税があるからね。」と、いとも楽観的な返事であった。

然し、その減税の実態はご承知の如く 300~400万円以下の年収の人々に対しては極めて僅かで、それ以上の収入に対し優遇する税制であり、酒税ひとつとっても二級酒は増税、一級酒は減税という、庶民のささやかな楽しみをも奪おうとするものである。

数年前は、一億総中流階級の意識が国民のコンセンサスとして存在した。これは、矢張り、比較的貧富の差が感ぜられない税制であったからである。

ところが、シャウブ勧告以来の大改革と政府は自我自賛しているが今回の税制改革は、この中流階級意識を見事にくつがえして貧富の差の拡大を生ぜしめている。しかし何と叫ぼうと民主主義の多数決原理によって新税制は制度化されたのである。これに対し、今後はこれを撤廃させるか、修正を迫らなければならない。

庶民無視の政権(自民党)を誕生させたのは国民の投票の結果であった。従って竹下政権や自民党に反省を求める機会は今夏の参院選である。また今夏の諸々の選挙を通してである。野党のうち、いづれがクリーンであるかどの政党が本当に庶民の味方が、皆様ご存知の通りである。次の参院選では少なくとも自民党の批判勢力を増大させるために真の革新政党を選ばなければならない。我々Y'S運動の中に立ち給うイエスキリストは、弱い者、貧しい者、しいたげられた者の味方であった。また、かつて、60年安保の時に、東山荘で反対決議をした、かつてのレイ・リーダー協議会のメンバー諸君が多くおられるワイズメンの一大奮起を願うものである。

メネット会より 一お知らせ

平田 由喜子

月日の過ちますのは本当に早いもので、いろんな思い出を残して 1988年も暮れて行きました。昨年は皆様の御協力でバンティストッキングやお茶をお買い上げ頂き、また、谷川メネットのお働きで枚方Y'Sメンズクラブには、お茶1袋600円にてたくさんお買い上げ頂き収入を得る事ができました。お茶の方は引続き注文し、奉仕センターの方にお預かり頂いておりますので、御入用の方はメモ用紙にお名前、月日、数量をお書きの上、お持ち帰りになって下さい。本年もどうぞよろしくお願ひ致します。

2月のプログラム予定

国際化のかけ声がさかんです。日本はここ10年のうちに世界に注目される国になりました。しかし私たちが自分たちのことを他の人によく伝えているかといえば必ずしもそうでないかもしれません。

あるシンポジウムで仏の人が相撲のことを話していました。日本の相撲が仏に行った時、人々にうまく知らせてもらうためにポスターを作ったそうです。おすもうさんを背中から写して「君は神を見たか」と言うのです。だんだん日が近くなって、そのポスターが表をむいて、千代の富士が土俵入りしているのに変わったそうです。仏には相撲はうまく受け入れられませんでした。ところがアメリカではホワイトハウスには入れてもらえなかった。プロレスと同じに扱われてああい野蛮なのは困ると言うわけです。きっと私たち日本も自分たちのことをうまく伝える努力がいるでしょう。と同時に他から来る人たちのことをうまく受けとめているかということも考える必要があるのでしょうか。

2月は日本に来ている学生を通して、またそれにかかわっているYMCA職員から彼らの暮し、ひいては日本の国際化の話聞く予定です。また昨年12月に田中譲二さんが聖地イスラエルを旅して来られました。旅の話も加えてしていただきます。お楽しみに。(藤井道雄)

私の家族 平田雅利ファミリー

僕の家族は父、雅利45才と母、由喜子(？才)と律子(千里高校2年生)、佳子(大阪女学院中等部2年)と僕、柴犬ケン(男10才)の4人と1犬の家族です。

父は毎日朝6時30分に起き7時10分に本町の会社に向かいます。日曜日には梅田アスレチックジムと一向に上達しない英会話のレッスンに行きます。時々ゴルフに行っておりませんが、一向に優勝カップを見た事はありません。

母、由喜子は毎朝6時に起床し、朝食と律子、佳子の弁当を作っております。朝はいつも大変眠たそうです。毎日3時には僕の散歩につれていってくれます。土曜日には水泳に行つてコンディションを整えています。この所外出が多くなり時々僕の散歩を忘れます。困ったものです。

律子は毎日8時頃バタバタしながら慌てて出て行きます。学校では軟式テニスをしてますが、学校の勉強や受験の為の塾など、何かと忙しい毎日を送っております。

佳子は毎日大阪へ通学しております。行動範囲が女性連の中では一番広く町の情報では一歩差をつけております。時々エレクトーンを弾いております。光GENJIのファンで、大学を卒業したらコンピュータの会社に努めたいと思っております。

僕がケン、家のセキュリティが仕事です。時々、人間以外の猫やいたちが侵入して頭に来ております。みんな楽しくやっております。

次は河野ファミリー、お願ひします。